

『濡れ雑巾』

副理事長・東京支部長
酒匂 雅信

皆様、明けましておめでとうございます。

昨年は組合員の方々、大変お疲れ様でした。昨年一年間の組合活動に、多くの方々が積極的に参加していただき、事務局としても北海道から九州まで全国の製造業、建設業の実体をかなり正確に皆様にお伝えすることが出来ました。また、皆様と商社、メーカーならびに経産省鉄鋼課の方々と厚板の在庫調整に関してもそれなりのスピード感をもって目標値を達成出来ました事も合わせて大変感謝いたしております。

我々シェアリング業界にとっては、08年後半から正念場、土壇場と不況感がエスカレートしてきており、本年は二番底の修羅場と言われておりますが、地方はもう修羅場の様相を呈している所もあり、いずれにしても新年を迎えて、相当な覚悟が必要であることは言うまでもない事です。鉄鋼メーカーや、商社と違い、国内だけで勝負している我々には、改善策が非常に少ないように見えますが、それでも経費が半分になるまで探し続けなければならないのも事実です。我々の凡人の目では欠点など何もないように見えるトヨタ自動車の各工場では未だにそれぞれ数十万件の提案により数千億円の改善がなされております。

我達の会社はとても乾いた雑巾とは言えないのですから、それ以上の改善提案は搾ればきっと出るはずです。ちなみに私の会社は水が滴り落ちる雑巾状態なので、まだ十分希望が持てます。

昨年の全国の組合活動の主体は、各地域の悪さ加減の競い合いと愚痴に重点が置かれていた気がしますが、今年は気持も行動もすべてプラス思考に転換していきたいと考えています。

本年は資源インフレ、製品デフレの時代だと言われております。鉄鉱石、原料炭は昨年から中国の大巾な鉄鋼増産の影響で二桁の値上りを示しております。すでに中国、韓国の高炉、電炉は値上げを昨年実施し、日本のメーカーも今年は相当のコストアップを表明しております。この一年またまたスクラップと呼ばれるようになった、かつての冷鉄源様も輸出価格が昨年暮より上昇してきました。これはありがたい事です、我々の製品、「切板」は相変らず全国的に不毛な戦いを

強いられており底値感が見えておりません。

日本国内の需要は2～3年、あるいは4～5年待っても元に戻る可能性が低いことは誰の目にも明らかです。戦いを仕掛ける方も、守る方もダメージは同じです。皆、体力がありますから諦めませんよ！もう商社も銀行も、政府も誰も助けくれません。我々一人一人が今年解決しなければならない難問です。

先程申し上げたように、幸い私共の雑巾は、搾れば水がいくらでも出ます(出ない方には失礼をお詫びいたします)。今年の組合活動は知恵を出し合って、昨年以上のスピードで良い事は今日から実行です。改善が何件出来るか組合員の競争です。価格の値下げ競争ではありません。そうでないと気が付かなければ、あなたのまわりには、仕入先も銀行も、お客も、従業員すらも、居なくなります。と偉そうに言っている私自身もまったく出来てなかった昨年でしたが、今年こそはやらねばならないと、新年に当りお賽銭を上げて誓いました。

組合員の皆様、今年も昨年同様、組合活動に参加され、前向きなプラス思考で提案をお願いいたします。今年が皆様にとって素晴らしい年になるよう努力いたしましょう。

(京浜産業(株) 社長)

『名古屋の現在、過去、未来』

副理事長・東海支部長
林 光雄

皆さん、明けましておめでとうございます。

今年、当地は「名古屋開府400年」を迎えます。昨年12月31日から今年の1月1日にかけて名古屋城でオープニングセレモニーが開催され、一晩中天守閣が虹色にライトアップされました。

名古屋城の街づくりは、徳川家康が1600年に関が原の戦いに勝利し天下統一を進める際、濃尾平野の要衝として名古屋城の築城と清洲からの町の移転を実行してスタートしました。

それが1610年であり、今年が「開府400年」となる訳です。

大昔から濃尾平野は木曾三川が土壌を育み沢山のコメが収穫され、木曾川からの木材が現金収入をもたらして来た訳です。このような豊かな土地だったお陰で、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の「三英傑」が出現しました。その後、豊かであった尾張徳川家は「御三家」と言われながら、何故か結果的には一人も将軍を輩出する事はありませんでした。その事もあって、明治維新の際には無血開城して名古屋城とその宝物は全て無事に現在まで引き継がれています。例えば、現存する「源氏物語絵巻」4巻のうち3巻が徳川美術館に保存されています。

その後、名古屋は日本の中心に位置する事もあって、「ゼロ戦づくり」のメッカとなり、多くの軍需産業が構築されました。その事で昭和20年春に米軍の最大の標的の1つとなり、街は焼け野原となりました。その際、名古屋城も天守閣・本丸御殿が焼失した訳です。

その後、名古屋の人々は14年掛けて名古屋城の天守閣再建に取り組む事になりました。城の再建と共に再度の街づくりと産業復興が実行されました。ここ10年で観ても、「中部国際空港の開港」「愛知万博の開催」「高速道路網の拡充」等々に加え、トヨタを始めとした自動車産業の拡大もありました。当地は戦後ずっと「街づくり」に取り組んできた訳です。もっと言えば、「名古屋開府」以来400年間で街づくりの歴史でありました。

従って、今般の建設不況は、名古屋にとって「400年に一度」の落ち込みであ

る、と言えるのではないのでしょうか。街からクレーン車が消えて1年以上が経過しました。今年も前半は目立った建設案件は全くありません。

しかし、名古屋城の天守閣を照らす虹のライトは「今年が名古屋の新しい歴史」の出発である事を象徴している気が致します。例えば、21世紀の新産業と期待される環境ビジネスやリサイクル技術は自動車で培った産業の底力を大いに活かせる分野であります。名古屋、東海地区にはその技術と人材が揃っている訳です。リニア新幹線の建設も今後スタートします。一昨年開通した北陸東海自動車道は、東海地区で生産した製品を「発展著しい東北アジア圏」に運ぶ交通インフラとなりましょう。

我々は、「次の飛躍」を目指して、今は兎に角「我慢の時代」を耐えて生き抜こうと決心しております。一方で次の発展に寄与すべき活動にも取り組んでいく所存であります。

皆さん、本年も東海支部の活動に対するご支援、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

(三和鐵鋼株・社長)

『坂の上の厚板シェアリング業界』

副理事長・九州支部長

木村 昭夫

新年明けましておめでとうございます。

昨年のセンセーショナルな出米事。「1,000円を切るジーンズ」「280円の牛井」そして「母材より安い切板」それぞれ、その戦略を考えさせられた。

経営者側から見ると、コスト大幅削減の仕組みを作り上げた企業の、当然の振る舞いなのか。まずは集客を計り、オプション物で稼ぐ方針なのか。マスコミに取り上げられる事による会社のPR効果を狙っているのか。それとも、「排除の論理」に基づく、独り勝ちを信じた戦術なのか。

一方、お客様側から見れば、コンプライアンス面で不信感を抱く事は無いのでしょうか。次に社員の立場から見れば、この戦術でモチベーションを高く保ち続ける事が出来るのか。その業界に夢を持ち続けられるのか。そして勝者になった時、本当に笑顔はあるのか。等々、考えさせられるテーマであった。

私達、厚板シェアリング業界は、鍵築・土木(橋梁含む)・産機・建機の分野で約80%の加工を担っている。民需(人)に直接振れ合う自動車・家電分野ではなく、アジア中心に活況を呈している輸出分野でもない。鉄骨400万トン、橋梁20万トン、建機は需要地に近い世界最適生産を目指すとの環境下で、私達はどの様に経営の舵を取っていけばいいのか。新年から頭の痛い問題に直視しなければならない。

昨年の政権交代により、「産業発展の為の基盤整備・充実」の時代が終わり「コンクリートから人へ」の時代に一変した。毎日々、TVで政府及び与党議員が胸を張って述べている通りである。「製造業派遣と登録型派遣の原則禁止」の派遣法改正も早急に通常国会へ提出されるとの事である。「政治」というものを本当に意識しなければならなくなった。特に地方は、中小企業は不安感を抱いているのではないだろうか。

私達は、お客様のニーズ(成長戦略)に合わせ、設備増強を計り、と同時に、コスト低減を目指して合理化投資を行なってきた。しかし、現在では需給ギャップが余りにも大きくなり過ぎてしまった。在庫調整という自助努力をするも、需要

がドンドン蒸発していく中では、市況を維持することさえ容易ではなくなってきました。お客様に混乱を与えてしまった。

司馬遼太郎氏の名著「坂の上の雲」で、その向こうにある真の国家像、あるべき国の姿、実現する為の人々の魂・気迫を考えさせられた私達は、今こそ自分達の「坂の上の厚板シャリング業界」を考えなければならない時だ。

厚板シャリング業、開業 101 年目にして最大の難局に直面している。業界の真のあるべき姿を考えるのは、組合会員にとって権利でもあり、義務でもある。

成り行きまかせでは、業界は疲弊し、総崩れになる。操業調整にも限界がある。各社共に需給に見合った生産体制・設備体制を自主的に考え直してはどうだろうか。即ち、工場集約、設備の廃棄までも実行せざるを得ないのではないか。

何故ならば、疲弊して、立ち行かなくなった姿を「坂の上の厚板シャリング業界」に見る訳には行かない。厚板シャリング業界に、独り勝ちは有り得ず、「共存共栄に解」を求めたい。

私達は、物づくり産業発展の為に、隅々にまで必要とされる機能を持ち・役割りを果たして来たし、今後も必要とされるはずだ。

政府は新成長戦略を「環境」と「健康」に置き、雇用の新規創出を10年後の2020年までに「環境」関連で140万人、介護を含む健康分野に280万人、そして観光分野に56万人としている。これをどの様に考えるのか・・・私達には躊躇している時間は無い。

新年が全ての全国厚板シャリング工業組合員にとって、良き年になります様に。

(豊鋼材工業㈱ 社長)

『停』から『動』に

理事・総務委員長
吉里 勉

明けましておめでとうございます。本年が私たちシャリング工業組合員にとりまして、よい年になりますよう心から祈念いたします。

昨年末、京都清水寺恒例の今年の世相を表す漢字の披露があり、「新」であった。新政権の誕生、イチローの新記録等々 「新」 の話題が多く登場したということのようだ。

このニュースの中で、何人かの政治家へのインタビューがあり、「絆」、「変」、「乱」、「新」、「衰」等の答えが紹介されていた。それぞれに意味、思い、が伺える。もし仮に私に聞かれることがあったとしたら、「停」と答えたのが今の心境である。

私たちの仕事につながる種々のプロジェクトが今、「停」の状態である。

先日、某所で今後予定されている大型物件名を訊ねたら、1年前に聞いたものばかりで、まさしく「停」の状態だ。そのうち「昔の名前で……」ってことにならないかと心配である。

「停」から「動」に変わること。これが私の本年最大の願いである。

「衰」というのは石原都知事のお答えであったと思うが、真剣に考えるべき問題だと思う。「坂の上の雲」を連載ドラマでやっている。劇だけに小説にない臨場感があるが、やはり当時の文化、精神、人間力がしだいに失われ、「衰」があてはまる状況になっているように思われる。

時間の経過が伴うため、この原因はとかく後の世代に押し付け勝ちである。我々も既に、押し付け世代である。これが問題ではないか。

当社では数年まえから毎年入社2～3年目の新人を対象に技能競技会を開催している。仙台から福山まで5事業所から選ばれた選手はそれぞれ自分が使っているポータブルの切断機を持参して参加する。どれもよく磨いてあり、念入りに調整している。約半日をかけて行うが本人はおろか同行の上司、先輩まで真剣そのものでえある。「今の子は……」なんて言葉はあてはまらない。

明治の英傑とはスケールの違う話ではあるが、当社にとってこのエネルギーを

どう活かすかが課題であり、「衰」を招かない条件だと思っている。

シェアリング業界は昨年シェアリング業発足100周年を記念した。次の100年を記念するには「今の子は……」という言葉を封印し、若手を盛り上げて行かなければならないと思う。私たちにとってこれも勉強である。

閉塞感のなか息抜きに拙句3題

- ・ゴルフはいいな 赤字だったら誉められる
- ・何だ、これ 製品より多いスクラップ
- ・温暖化 なのに暮らしは寒冷化

本年もよろしく。ご安全に!!

(JFE 鋼材株 社長)

『直面する景気後退』

理事・新潟支部長
真柄 修

明けましておめでとうございます。

新潟に着任して、4度目の正月を迎えました。天候的には今冬は荒れ模様です。昨年の12月15日に初雪が降りましたが、一昨年に比して約一ヶ月程度遅れました。しかしながら、この初雪が断続的に降り続き、当地は25年振りの大雪となりました。今冬の気候は、過去三回の体験とは打って変り、初端から荒れ模様のスタートです。

当地の経済状況は、昨年の幕開け同様、暴風雪が荒れまくっております。この暴風雪状態が一向に回復せず、一年以上経過しました。寒さと嵐にひたすら耐えてきた一年だったと思います。当社も、昨年の2月より毎月臨時休業を実施し、雇用調整助成金を活用しております。教育訓練も実施しております。経費関係も30%程度削減し、ワークシェアリングでこの難局を乗り切ろうとしております。

しかしながら、諸施策を打てども、打てども販売量、加工量が減少し、かつ加工賃が下落し収益確保が困難な情勢を打破するには至っておりません。

当地区の厚板溶断加工の需要の太宗は、ファブ向けであります。昨年は、Hグレードクラスは関東圏の受注でしのいでおりましたが、年明けの物件はほとんどないというのが現状です。またMグレードクラスは、地場物件主体の受注活動を展開しておりますが、これもほとんどありません。

確かに、需要が全くなくなったという状況ではありませんが、切板加工量は2008年の上期比50%程度の感触です。この1～3月は一時的かもしれませんが50%を割り込む可能性もあると自覚しております。

一昨年のリーマンショック以来、日本経済は先進諸国の中で、最悪の状況であり、とりわけ地方経済は一層落ち込みつつあるのが現状です。二番底に突入したのではないかと考えています。

当然ながら自立指向で経営にあたっておりますが、この需要消滅状態を解消するのは、一民間企業ではとても不可能だと思います。今こそ、国民が負託した新政権に景気回復の諸施策を実行してもらわないと国民経済が破綻します。企業の活動収縮、撤退に至れば失業者が大量に出てきます。生活不安状態では、家計は

縮まり、消費が出てくる訳がありません。いろいろな見解があるかとは思いますが、即効性のある土木・建設関連の早急なる公共投資の実行を願わずにはられません。

今年の幕開けは、政府支援の一部の産業を除いて、昨年よりも厳しいスタートとなるのではないかと危惧しております。

しかし、今年のレースは始まったばかりです。2010年度予算は過去最大の90兆円を超える見込みのようですので、この予算の早期実行に期待して、今しばらく臥薪嘗胆かと思っています。

(新潟スチール㈱・社長)

『「激安」は誰が喜ぶか?』

理事・中国支部長
浅利 重法

新年あけましておめでとうございます。

昨年は100年に一度といわれる世界同時不況のなかわが国鉄鋼業も大打撃を受けました。暦年粗鋼は約8,800万tの見込みで、厚板シャリング業界も需要分野の活動水準低下に直撃され極めて深刻な状況下で新年を迎えることとなりました。昨年、この稿で「強欲を規制し格差を排除する新経済秩序の構築を期待し」日常においては「木の知恵による共生をめざしたい」と述べました。しかしそんなに簡単にことは運びません。

依然として金融商人・富裕層の強欲さははびこっています。日経ビジネス年末号に英仏の銀行高額報酬課税に関する記事がありました。いまなお失業率は悪化しており貧困層の生活難がますます深刻化するなかで何を考えているのか？ ゴールドマンサックスは「人の顔に張りついた Vampire Squid (吸血いか)」だと呼ばれたと。英国では2万5千ポンド(360万円)を超える賞与の超過分に50%課税とありますが、英国は「格差先進国」でかなり深刻な状況にあり、不平等や不安定が医療費や防犯対策で社会的コストを増大させている。もっと桁違いに不当に稼ぐ輩がいて彼らにきちんと課税すれば、貧困・教育対策などの十分な財源になるとの指摘もあります。富裕層が政治をも牛耳り金を増殖させる分、普通のひとが額に汗する労働の対価が搾取されているのでしょうか。わが国では銀行・金融関係者が法外な報酬を得ることはないようですが、間違いなく格差は拡大し貧困・社会不安は増大しています。真に安心・安全な社会のために新政権による社会保障・教育予算の効果に期待したいと思います。

さて生業における共生のほうは、経営者の哲学ですからこれもなかなか難しいようです。切板商売でも物件枯渇下でちょっと纏まったロットになるととんでもない激安価格がでてくるようになりました。衣料品や食品の世界で900円以下のジーンズや250円の弁当を安いといって喜んでいられないということ、給与カットやリストラで自分たちに降りかかってくることに多くの人が気付いていますが誰もとめられない。切板の激安価格もいつか来た道だと揶揄されています。「激安」がデフレスパイラルの起点になるのなら何か規制・対策はないのか？こ

ういうと即座にカルテルは違法と叱られそうですが、市場原理による激安価格～デフレスパイラル、不況の長期化と何らかの手続きによる適正価格での市場の安定、広範囲の関係者の安定と比較考量することは無用な議論でしょうか。国内鋼材取引はもともと売り手よし・買い手よしの伝統があり荒っぽい市場原理と程遠いものであったはずです。件の馬鹿安値オファーにしても結局誰も喜ばず混乱を

招いただけではなかったか。神々しく権威ある鷹鳥居殿には疑問も多い。カルテルで蒙った不利益とはどのように算定されるのか？国内企業の合併・提携には厳しいが海外の資源メジャーのM&Aによるわが国の多大な不利益をどう考えるのか？それにしても許せないのが「告発一減免制度」。ちくり、たれこみは恥ずべき行為でわれわれ鉄鋼人の風上にもおけないものです。親として子供に「何でもちくれ、たれこめ」と教えますか？メーカーも商社も大手企業ではCRM（コーポレートリスクマネジメント）の一環でこれを奨励しています。誰がこんな情けない組織・風土にしたのか？

昨年一年、景気低迷は覚悟したとおりですが、鉄の商売のよき伝統がどこか損なわれてきたような気がします。今年これからまさに経営者個々が哲学をもって雌伏の時期に耐えていかねばなりません。鉄は普遍的な素材で需要は永遠です。シャリング―厚板溶断機能は産業に不可欠でありまちががなく持続可能な事業です。厳しい環境下ですが、激安競争に陥ることなく営業力を切磋琢磨して健全な競争・共生をめざしたいと思います。

最後に暮らしと鉄の結びつきのほのかな話題をお年玉に。

広島地区は古くから工具・道具の金属加工が盛んでした。「安芸の10り」は（針はり、錐きり、銚もり、鏝やり、錨いかり、鑿やすり、鎖くさり、鋸のこぎり、釣針つりばり、剃刀かみそり）。

おまけに 長崎ちゃんぽんは福建省出身の陳平順の考案ですが、そのころの華僑の仕事は「3刀」（料理、散髪、服の仕立て）。

（太陽シャリング㈱ 社長）

『老人のたわ言か正論か』

理事・東京支部 最高顧問

大川 宏之

新年明けましておめでとうございます。

昨年は本当にひどい年でした。売上（生産）は押さえられ、価格も下落、一昨年の価格急騰は何だったのか。私達の業界で受けた在庫の評価損の総額は計り知れない巨額だったと思います。そして今、需要の減退は設備能力から見て50%稼働で一杯。このまま需要減が続けば業界が今のままでは存立し得ないと云うことかも知れません。何故か。それは私流の表現では「民主党不況」「鳩山デフレ」とでも云うのでしょうか。とにかくこのままでは日本が危ない。政治的にも経済的にも・・・と思うのです。

民主党が昨夏、衆議院選で大勝して以後、最近になってやっと報道も一部その政権に批判的な面も見られる様になってきました。自民党の情けない現状では期待出来る受け皿がないと云うことは判っています。しかし、今「革命政権」と一部では云われる政権を存続させていいのでしょうか。「マニフェスト」を実現すると云います。ではこのマニフェストは本当に実行可能なことだとは考えられません。公約は守られないと云いますが、自民党を批判し政権から引きずり下す為の公約、これが対抗的な施策であればある程インパクトは強いのですが予算もつけられず、財源の確保どころか全くの夢物語りであることは当然です。勝つ為にあえて作成したものだからです。そして革命と云われることは、対アメリカとの問題に大きな懸念を抱かずにはおられない事なのです。沖縄の問題を始めとして、今やアメリカとの関係はボロボロです。日本は直ちに今、日米安保条約を失くして、自ら国を守れますか。そのお手本がフィリピンにあります。アメリカの基地はなくなったのですが大変です。そして日本はかの地よりも北、ロシア、中国、北朝鮮にずっと近いのですよ。国を守れますか。

政治は国民を騙してはいけません。口先だけでいい事を云っても駄目なのです。「トラスト・ミー」は通じません。そして政党人、或いは国をリードする人はお金で信用をなくす様では困ります。首相や幹事長の第一秘書やら政策秘書やらが逮捕や在宅起訴されるなんて異常です。そして今の地位についたから検察が色々調べています。もし、野党の党首程度なら、脱税とも思われる諸件が闇のまま

に過ぎて行ってしまったかも知りません。あとから納税すればいいと云うものでしょうか。それは社会一般的には脱税と云うのではないのでしょうか。政治は「志を高く、国民の幸せの為になくてはいけない」そして法に触れなければいいのではなく、法に触れそうなことに近づかないでいけないといけません。目線は高くなければいけないし、票の為に下げて迎合してはいけないのだと思います。

報道の左傾化もひどいものでした。二大政党と云います。しかし、「保保」の中ならいい、しかし「保革」の中で政権が移動することは危険すぎます。国民を危険にさらす様なマスコミのリードは明らかに間違っています。

今年は正念場だと思います。日本国が「政治」の下に経済がおかれてしまっ
てはいけません。それは自由主義と云う政体が全体主義、社会主義国家とな
って行くことではないのでしょうか。

国の為ではなく、己の野心の為に動くのか、政権はとればいいのではない、その
政権が国民の為に何をなすのか。どう日本国をリードして行くのか「志」はしっ
かりしてもらいたいと思います。国を売って何が政治なのかと問いたいのです。
私達は自由社会の中に生きて来ました。この自由社会であると云う基盤の上に成
り立ってきた日本国です。衆愚政治であるデモクラシーを逆手にとって理念もな
い党利党略、国民の為ではない政党人の野望の為に、票を取ることを最善最大の
目的にしている今の政権政党に私達は抗して行かなければならないのでしょ
う。

私は日本国を失いたくない、日本人でありたいと強く望んでいます。夏の参議院
議員選挙で誤ちを繰り返さない様に行動すべきと考えます。

円高放置、デフレ対策なし、株価によい影響はありません。沖縄の基地問題、ア
メリカとの安保のこと、CO2削減25%と軽々に云って頑張っている私達、企
業人の足を引っばって貰いたくないのです。まだまだ一杯あります。しかし「老
い」をあまり表に出すのも・・・と思います。愚痴かたわ言もこの辺が限度でし
ょう。ただ政治の方向性修正に向けて大切な「時」を生きなければなりません。

皆様のご健勝を祈念致します。

(芝浦シャリング(株) 会長)

『二番底はあるか』

副理事長・大阪支部長

永吉 明彦

会員各社の皆様、あけましておめでとうございます。

昨年は不況で明け、不況で暮れた1年でした。

昨年の重大ニュースと言えば、「政権交代」「オバマ新大統領就任」「インフレーション」「円高」「石川プロの最年少賞金王」などが思い浮かびますが、経済不況のニュースが無いのは低迷が続いてニュースにならないということでしょうか。

昨年の1月に実施された日本記者クラブの「2009年予想アンケート」の結果が目にとまりましたので紹介します。

×(1)12月31日現在のわが国の首相は誰か 小沢一郎

○(2)総選挙で民主党は単独過半数を獲得するか ○

○(3)日経平均株価が1万円を回復することがあるか ○

○(4)東京外為市場で、1ドル=70円以上の円高になることがあるか ×

×(5)第3四半期までの中国の実質経済成長率が年率5%を下回ることがあるか
○

○(6)12月31日現在で北朝鮮の金正日氏は総書記の座にあるか ○

○(7)米3大ネットとCNNいずれかの世論調査で、オバマ米大統領の支持率が50%を切ることがあるか ○

○(8)コペンハーゲンの第15回国連気候変動枠組条約締約国会議で、中国、インドも数値目標義務を負う形でポスト京都議定書が合意されるか ×

×(9)ゴルフの石川遼プロは賞金王になれるか ×

×(10)2016年の五輪開催地は東京、シカゴ、リオデジャネイロ、マドリードのいずれに決まるか シカゴ

記者クラブのプロが予想しても6勝4敗という結果でしたが、日経平均と円高についてはさすがに正解でした。ゴルフの石川プロが大方の予想を覆して賞金王になったことは立派です。また、西松建設問題が無ければ小沢氏が首相になっていたのでしょうか。過去を振り返るのは結果が出ているので、もしあの時事態が違っていればどうなっただろう、などと想像するのも楽しいものです。

今年もアンケートは行われると思いますが、経済に関しては「日本経済の二番底はあるか」というのが出題の一つになるのではないのでしょうか。

日本の経済成長率は、08年の10-12月期と09年の1-3月期は年率にすると10%以上のマイナスでしたが、4-6月期と7-9月期は低値ながらもプラスに転じました。一応夏で底を打ったといわれています。

一方、世界経済の予測としては、IMFが09年-1.1%見込みに対し10年は+3.1%、世銀が09年-2.9%から10年は+2.0%としています。米国経済が過剰消費の抑制に動いていますのでけん引役にはならず、中国を始めとする新興国が世界経済のけん引役となり、その中でも中国が主役となるのは間違いないでしょう。また、日本経済については、IMF、世銀、民間機関が+0.6~1.8%と低空飛行ながらもプラスを予測しています。もちろん「デフレスパイラル」と「円高」というリスクはありますが、世界的な景気の緩やかな回復と中国成長の勢いで二番底は回避されるというのが私の予想（願い?）です。

しかし、回復するとしても数字を見ると当然のことながら急回復ではなく低空飛行が続くのは間違いなさそうで、日本の金融緩和は長期化せざるを得ず、金融市場は不安定から抜け出せず、為替・株価・債権・原油などの資源価格が乱高下することになるといわれています。何がきっかけになるのか分かりませんが、例えば中国の成長の一時的な調整などにより、円相場が一時的に80円を切り、日経平均株価が去年の最安値を下回ることがあるというアナリストもいます。

今年も外部環境に翻弄される一年になると思いますが、慌てず、騒がず、じっくりと腰を落ち着かせて、経営の総点検と再構築にゼロベースから取り組むことが大事だと思っています。

(株)シーヤリング工場 社長)